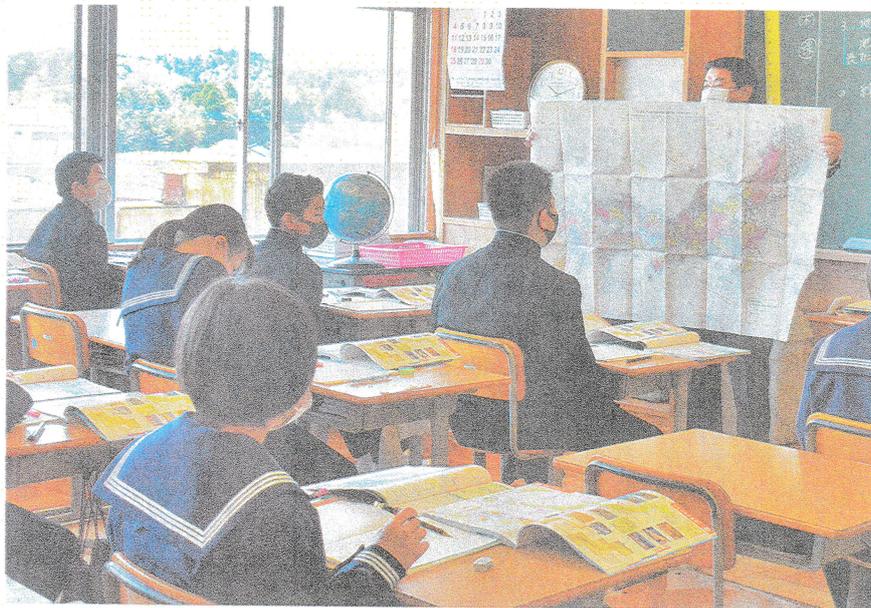


現在の高萩市出身で、江戸時代の地理学者・長久保赤水(1717~1801年)が作った精密な日本地図「赤水図」が本年度、中学校の社会科の授業で使う地図帳(帝国書院)に掲載された。市教育委員会



によると、社会科の検定教科書に赤水図が取り上げられるのは初めて。市内の中学校では早速、地図帳を使った授業が始まり、生徒らは郷土の偉人の功績に思いをさせていた。(保坂千裕)

高萩出身の地理学者 社会科地図帳に掲載



市内の松岡中で十五日、地図をテーマにした一年生の社会科の授業があり、赤水図が登場した。

まず、担当の渡辺浩実教諭(五十が黒板に地球を図示し、緯度と経度で世界の位置を正確に表すことができる)とし、本初子

「赤水図」を社会科の授業で学ぶ生徒ら＝高萩市で

午線や赤道について説明した。次第に話題は世界から日本に絞られ、「では、日本の地図はいつ作られたと思うか」と生徒たちに問いかけると、数人から「三百年前」と返答があった。そこで渡辺教諭は、地図帳を開くように指示。「日本の地図

で有名なのは誰？」と問うと、「伊能忠敬」と生徒が答えた。日本地図の変遷を説明したページには伊能忠敬の地図の隣に「赤水図」が並ぶ。渡辺教諭は「赤水は旅人から情報を得ながら地図を作ったと伝えられている。歴史的に価値がある」と説いた。

郷土に思いはせ授業



長久保赤水の「赤水図」(左下)が、伊能忠敬の「伊能図」(右)と並び紹介されている帝国書院の地図帳

市では地域学習の一環で、小学校から赤水について学ぶ機会が幾度かあるが、社会科は初めて。授業を受けた山形樹生さん(二)は「『赤水図』の北海道は少し違つかなと思つたが、地元の人が地図を作ったことはすごいと思うし、うれしい」と話した。帝国書院は「赤水図」を掲載した経緯について「日本の古地図史で重要として扱った。赤水図という、かなり正確な地図があったということを知ってもらふ意義もある」と説明する。地図の変遷は、中学社会科で教える内容の範囲から逸脱するもの、あえて取り扱ったという。赤水が、検定教科書に載るまでに知名度が上がった背景には、地元団体の努力がある。一九九二年に赤水の子孫や地元住民で設立した「長久保赤水顕彰会」はこれまで、赤水の書籍の現代語訳一冊や、生涯を描いた漫画本を発行。当時百人だった会員数は、昨年の国の重要文化財(重文)指定もあり、今では全国で七百人弱にまで増えた。顕彰会は、重文指定を記念したファイルを作成し、この日、児童生徒の学習用として市に二千人分を寄付した。佐川春久会長(二)は「赤水ブームは来る。大河ドラマを目指し、世界中にある赤水の資料を集めていきたい」とさらなる意欲をみせた。

「赤水図」中学生に誇り

国名勝 袋田の滝

大子町 029-429-1111 http://www.tsubaki-kofu.com/

県

日立 水戸 土浦 きよら 降水確率 朝10% 気温 最高11度 南の風

水戸支店 027-231-1111 水戸市1-1-1 電話 FAX mail: info@waterfront.co.jp つくば市305-1-1 つくば市305-1-1 電話 FAX

茨城 6.00 Mo 9.00 HA

「地震」

東海第一 差し止め

東海村の(原電)東

震対策が不

険性がある

ま市の男性

差し止めを

水戸地裁は

請求を棄却

訴えは、三

ノロウ

水戸市は

彩の国保

で、園児と

十一人が嘔

症状を訴え

とみられる

集団感染し

重症者はお

方に向かっ

論が分かれ

今回の主

発の耐震基

られている

あり、地震